

## 新しい研究の展開へ

富山県農村医学研究会会長 豊田文一

胸や腰まで水田に沈め、苗を埋めこむ農作業、20年近い前、本会設立以前に、そこここにみられた。その労働によって蝕ばむもろもろの健康障害、子どもはこれをじかにみ、この対策、すなわち健康管理という新しい言葉も生まれ、会員各位の絶ゆまない努力によって調査研究が進められてきた。

しかし農業の近代化に伴う新しい形態の健康障害が、子どもを対象として現われてきたことは否定できない。その推移に対して、医療にたずさわる人々ばかりでなく、農村の生活改善に努力されている人々、はた又農業経営、技術面での指導的立場の人々も、本研究会の発展に盡力されたことは感謝にたえない。このことは全国的にみても、会員は全県下にまたがり、かつ研究業績も広範囲であり、他に比して誇りうると自負している。

さて本年度は厚生省委託助成研究として「農村における死亡の実証的研究」と「農業

生産活動における化学物質の人体への影響の関する研究」の2課題について、その研究責任者として、前者は私と越山健二氏、後者について寺中正昭、渡辺正男、石田礼二の各氏と私が担当することになり、3年間継続研究を行うこととなった。なお本研究会としての委託助成研究は、昭和52年「農業機械の騒音と振動の人体に及ぼす影響に関する研究」以来であり、上記2課題に対して、新しい構想のもとに検討中であり、調査研究に当り、会員各位の絶大なるご協力をお願いするものである。

ちなみに日本農村医学会研究委員会において、今後の厚生省委託研究については、新進気鋭の研究者の発掘に務め、旧来の殻を破り、調査研究につとめることが合意された点をつけ加えておく。

以上第18巻第1号の発刊に当り、感謝の一端を述べて巻頭の言葉とする。